



徴古館報 第38号 2019年(令和元年)9月発行



和琴、黒漆塗三引両散琴箱・琴柱箱 享保20年(1735) 7代佐賀藩主鍋島重茂室 源姫所用

「伝来品でたどる鍋島家の歴史—大名から侯爵へ」

本展は、鍋島家に伝来した様々な美術工芸品・歴史資料を通じて、佐賀藩主であった江戸時代から侯爵となった近代までの鍋島家の歴史を幅広くたどる展覧会です。会期を3期に分けて展示品の入れ替えを行い、初公開や久方ぶりの公開となる資料も数多くご紹介しています。また、各期ごとに展示室内の一部に特集コーナーを設けています。

伝来品でたどる鍋島家の歴史—佐賀藩主から侯爵へ

第1期 5月20日(祝)～7月20日(日)

第2期 8月19日(祝)～10月19日(日)

第3期 11月11日(祝)～12月27日(日)

鍋島家の雛祭り

2月11日(祝)～3月31日(日)

ひなまつり期間中は無休
観覧時間 10時～17時

明治から昭和初期の秩父鍋島家歴代夫人が愛しなおひなさまを紹介する恒例の雛祭り展。古写真をもとに往時の雛祭りにならった幅6mと5mの大雛壇は、豪華で品格を兼ね備えています。大雛壇の迫力と御人形の愛らしさ、細やかな雛道具の世界を存分に堪能ください。

「鍋島家の雛祭り」展 期間中の週末のイベント

期間中の土曜・日曜・祝日には、2階にて各種イベントを開催。お茶室や華の演奏、茶花展示などをお楽しみいただけます。伝統のおひなさまと一緒に、和の文化に親しむ寛ぎのひとときをお過ごしください。

佐賀城下ひなまつり

毎年2月11日～3月31日は、当館と佐賀市歴史民俗館を中心に「佐賀城下ひなまつり」が開催され、城下町全体がおひなさまで彩られます。歴史民俗館では、佐賀の伝統工芸である佐賀織や鍋島漉漉、佐賀藩の神文様「鍋島小紋」を用いたおひなさまなどを見ることが出来ます。また、周辺の博物館やお店など関連の展示やイベントなどをお楽しみいただけます。

年間展示案内

第1期(5月20日～7月20日)

特集「皇室と鍋島家」

初代佐賀藩主鍋島勝茂所用の茶道具や3代藩主綱茂筆の書画、4代藩主吉茂所用の能装束、文禄5年(1596)製の鞍・鏡など、多くの初公開資料を含む鍋島家伝来品を展示しました。

特集展示では皇室の代替りを記念して、朝廷から10代藩主直正が拝領した印籠や磁器盃、明治天皇の御遺物として侯爵鍋島家に下賜された菊御紋付の御化粧道具などを通じて、皇室と鍋島家との深い関係を感じて頂きました。



第2期(8月19日～10月19日)

特集「仙台伊達家からの御輿入れ」

百武兼行や高木背水、岡田三郎助など佐賀出身の洋画家の作品のほか、佐賀藩の理化学研究所 精煉方やその流れを汲む精煉所で作られたガラス製品などを展示。特集展示では、7代藩主重茂に仙台藩主伊達家から嫁いだ源姫の婚礼調度等を中心にご紹介します。大火や震災などで失われることも多く、鍋島家には正室の婚礼調度はほとんど遺っていない中で伝来した、奥方の暮らしの空間が偲ばれる品々です。



第3期(11月11日～12月27日)

特集「直正公の娘たち—貢姫・宏姫・昶姫」

藩祖鍋島直茂宛ての豊臣秀吉朱印状や鍋島藩窯製の青磁皿、初代藩主勝茂所用の達磨・布袋・朝陽図(狩野探幽 筆)などを展示予定です。特集展示では、10代藩主直正から長女の貢姫に宛てた自筆の書簡のほか、熊本藩主細川家に嫁いだ二女・宏姫の婚礼調度である鏡と鏡建(初公開)、三女・昶姫の幼少時の産着などをご紹介します。

初公開資料

紅色ガラス菓子器(薩摩切子)

明治時代初期 ガラス製 1点 高さ23.0cm 径19.9cm



▲ 展開した様子
▼ 周囲には16弁の菊花文を配す

透明ガラスを素地とし、全体に深い紅色のガラスを被せ、菊御紋の装飾が施された切子(カットガラス)の三段重。允子内親王(明治天皇第八皇女)が嫁がれた朝香宮家に伝来し、のちに朝香宮紀久子さまが降嫁されたご縁で鍋島家へと伝わりました。今回の展覧会で初公開しています。

献納された薩摩切子

幕末の薩摩藩では、当時日本では作ることのできなかつた紅ガラスをはじめ藍や緑などの色ガラスを開発。カットを施した薩摩切子は將軍家などへの贈答にも用いられました。『薩摩硝子の沿革』(大正10年)によると、明治5年(1872)、明治天皇の九州御巡幸の際に大山県令が菓子皿を献上。同年中に宮内省より蓋物三組の依頼があり、市来正右衛門設立の開物社にて在来の方法により製造、献納したと記されています。納入の時期は特定できないものの、その際に皇室に納められた3点のうちの1点とみられるものが、聰子内親王(明治天皇第九皇女)が嫁した東久邇宮家に伝来。また、完品ではないものの町田市立博物館にも同意匠の1点が所蔵されています。

本品との共通点

いずれも本品と同じ意匠で、蓋の上面には16弁の花弁をもつ菊花文が表され、側面にも隅切りの長方形の中に16弁の菊花文が、1段につき8カ所ずつ配されています。

東久邇宮家伝来のものは、高さ20.5cm、径19.5cm。箱には「昭憲皇太后御遺物 大正三年八月廿三日」と記された貼紙があり、蓋表には「鹿児島焼ギヤマン菓子入 但三重」と墨書されています。

町田市立博物館所蔵のものは一段分と蓋のみが伝わっていますが、本来は三段重であったと考えられます。高さは10.6cm、径は19.2cm。内側に「青山御所申口」と書かれた貼紙があります。「青山御所申口」の詳細は不明ですが、昭憲皇太后は青山御所で崩御されています。

当財団所蔵の本品は、昭憲皇太后の御遺物という記録はないものの、意匠や大きさがこれらの2点と共通しており、さらに箱の蓋表(右下写真)の「鹿児島焼ギヤマン菓子入 三重」という内容や筆跡が東久邇宮家伝来のものと極めて類似しています。また伝来も考慮すると、前述の蓋物三組のうちの1点であることが考えられます。

明治時代初期の大型の薩摩切子の優品として貴重な現存例といえるでしょう。

(参考文献)

東久邇宮家伝来分については『薩摩切子』(土屋良雄、昭和58年)、町田市立博物館所蔵分は『黎明館企画特別展 薩摩切子』(鹿児島県歴史資料センター黎明館、平成16年)を参照。



さが城下まちづくり実行委員会

「古地図で佐賀城下の魅力再発見！」

徴古館が核となり、市民団体や佐賀県・佐賀市などと組織している「さが城下まちづくり実行委員会」。城下絵図などの収蔵資料を活用し、郷土の歴史を再認識し、今後のまちづくりに繋げることを目的に、平成21年度より行っている事業です。今年度は恒例の佐賀城下探訪会のほか、藩土の名簿や褒賞録の調査・翻刻・出版準備作業、データベース整備などを進めています。

佐賀城下探訪会

今年度は「龍造寺家と鍋島家」をテーマに10月20日と12月1日の2回開催します。従来は終日、現地を歩く10kmほどのコースでしたが、今回は午前中に座学形式の講座で探訪先について一通りの情報を得たのち、午後から現地を探訪する5kmほどのコースを予定しています。広報開始から数日で定員に達し、改めて郷土史への関心の高さを実感しました。



歴史案内板の設置

佐賀城下に歴史説明板を設置する歴史的風致サイン整備事業は、佐賀市による「歴まち事業」の一環として、委託を受けた実行委員会が設置個所の検討や解説文の執筆を進めています。平成27年度以降70基を超える説明板や誘導板を設置してきました。城下探訪会などのイベントとともに、いつでも、誰でも現地で歴史に触れる機会の提供に徴古館の収蔵資料と研究成果が活かされています。5年目にあたる今年度は寺社を中心に新たに約20基を設置する予定です。

研究助成事業

鍋島報効会では平成13年度より、郷土佐賀の研究を奨励し、その成果を地域に還元することを目的に、一般公募による研究費の助成を行っています。

【4月5日】 第19回研究助成授与式

平成31年度(令和元年度)の助成は4名の方に決定し、徴古館で授与式が執り行われました。授与者・研究テーマは以下の通りです。岡寺 良「佐賀藩・唐津藩の沿岸防衛に関する考古学的研究」/下高 大輔「肥前名護屋城を中心とした「五畿内同然」考—九州への織豊城郭石垣導入に関する再検討—」/堀江 潔、眞部 広紀、岡本 涉「基肄城・帯隈山神籠石・おつぼ山神籠石の写真測量と三次元モデル化」/高岡 萌「鹿島鍋島家と鎔造館—旧藩主家主導の中等教育の研究—」



【6月1日】 第18回研究助成報告会

昨年度(平成30年度)に助成を受けた4名の方により、戦国期の歴史や近世後期の蘭学、磁器生産、初期洋画などにわたる各分野の報告がありました。会場からは熱心な質問や意見が挙がり、62名の参加者からの拍手が響きました。また、各報告に対し当財団の高島忠平(理事・徴古館長)と大園隆二郎(評議員)より講評・助言がありました。今回の報告内容は、研究報告書 第9号に掲載しています。



【9月】 研究報告書第9号発行

第17・18回(平成29・30年度)に助成を受けた7名の研究者による研究報告書 第9号を発行しました。ページ数は169ページ、価格は1,500円で、当会事務所のほか、お電話やメールでもご注文を受け付けています。

また、過去に発行した報告書も、在庫のあるものは引き続き販売中です。(在庫の有無は、徴古館HPの「ミュージアムグッズ」内、「徴古館の図書」のページでご確認頂けます)

徴古館ニュース

【1月20日】 第10回 香道体験会「初春の香りを楽しむ」

平成31年1月20日、新春恒例となりました香道体験会を開催し、午前・午後の4回で76名の方にご参加頂きました。梶島 禪徹先生(志野流香道九州松隠会)のご指導、佐賀香道会の方々のお点前のもと、三種の香木の微かな香りを聞き当てる「水鳥香」を行いました。また、今回はお呈茶のほか、佐賀大学の留学生 翟俊同さんによる演奏で、三千年の歴史をもつという中国の楽器「七弦琴」の柔らかな音色もご堪能頂き、和漢の文化を楽しむ穏やかな会となりました。

※次回は令和2年1月26日(日)に開催いたします



【3月27日】 栄子夫人のドレスが県指定重要文化財に

平成31年3月27日、当財団所蔵の「小袖地ドレス(バスル・ドレス)」「(11代鍋島直大夫人栄子所用)が佐賀県重要文化財に答申されました。

指定の理由としては、伝統的な小袖の模様を生かしつつ、欧米で流行したスタイルと巧みに融合させて仕立てられている点や、所用者や伝来が明らかである点などが挙げられます。これで当財団所蔵の県指定重要文化財は14件となりました。



このドレスは平成30年の「肥前さが幕末維新博覧会」期間中に徴古館で展示しました。また、同時期の「さが維新まつり」では栄子役に扮した女優の三根梓さんがこれを模したデザインのドレスを着用し、話題となりました。

今後も、佐賀の地で大切に後世に伝えたいと思います。

徴古館報の今後の発行について

徴古館報は、これまで毎年1月と7月に発行してきましたが、次号(39号)より毎年4月に発行(年1回)の予定です。

徴古館報 第38号 2019年(R1)9月発行

公益財団法人 鍋島報効会

〒840-0831 佐賀市松原2丁目5-22

TEL・FAX (0952) 23-4200 MAIL info@nabeshima.or.jp

URL http://www.nabeshima.or.jp